



昭和2年5月30日 東中野駅表口新築落成記念
 (現在のJR東中野駅東口) 写真提供: JR東中野駅

時期 項目	開業当初 (明治36年6月)	現在 (平成12年1月)
運転本数	5本	487本
駅員数	6人	24人
乗降客	約3,000人 (大正初期)	75,600人
ホームの長さ	30m	211m
運賃	3銭	130円

第十三回

明治初期の東中野(その1)

一枚の賞状

私の家に一枚の賞状があります。私ごとで非常に恐縮ですが、これは私の祖父・岸久太郎が明治16年3月、時の農商務卿(現在の農水省と通産省の両省を一緒にしたものか?)の西郷従道(西郷隆盛の実弟)から授与されたものです。授与の理由は「陸粳」(畑でつくる稲。陸おかほ稲)の栽培が良かったのでしよう。祖父は嘉永4年(一八五一年)11月に生まれ、昭和11年(一九三六年)1月、85歳で亡くなりました。私の記憶では非常に好々爺でした。

私がこの紙面を借りて申し上げたいのは、当時のこの地区の姿です。賞状の住所は「東京府下武蔵國東多摩郡、中野村」となっています。明治16年といえば明治維新の改革がなつて間もなく、日清・日露の戦役の前にあたります。都心からは遠く、中央線の前身である甲武鉄道が新宿と八王子間に馬車鉄道敷設の申請をしたのが偶然にもこの年のことでした。

嘉永から安政、万延、文久、元治、慶応、そして明治から大正、昭和と、祖父は稲穂の行く末をどう見て来たのでしょうか。

